

2019 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法治療学Ⅱ-A(中枢系)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	昼間部2年	学期及び曜時限	前期 木曜3限	教室名	902/機能訓練室
担 当 教 員	金谷 規弘	実務経験とその関連資格	理学療法士として上山病院で勤務経験あり。認定理学療法士(臨床教育)。		

《授業科目における学習内容》

理学療法の治療内容の授業である。脳・血管系の主要疾患とその症状を理解できるようになる。また、各検査測定(観察含む)の意義目的が説明でき、理学療法評価(各検査測定(観察含む))・治療を選択・実践できるようになる。

《成績評価の方法と基準》

前期、後期ともに小テスト(15%)、課題レポート(15%)、学期末テスト(70%)で成績評価とする。前期と後期の平均点が、科目の総合評価となる。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:①神経筋障害理学療法学テキスト(中枢神経障害理学療法学テキスト改訂第版)(南江堂)  
②脳卒中理学療法の理論と技術第3版(メジカルビュー社)  
参考書:①理学療法評価学 第5班(金原出版)、②DVDで学ぶ脳血管障害の理学療法テクニック(南江堂)  
③ベッドサイドの神経の診かた(医歯薬出版)、④脳卒中最前線 第4版(医歯薬出版)

《授業外における学習方法》

(予習)各回の授業内容を教科書①②で確認しておくこと。  
(復習)実施後の授業内容を資料、教科書①②を基に復習すること。実技演習後は、その復習も行っておくこと。

《履修に当たっての留意点》

苦手意識を持ちがちな脳解剖について、事前に復習して授業内での脳血管障害の病態を理解して欲しい。また、評価と治療の意義目的や効果について説明できるようになって欲しい。出来るだけ症例イメージができるように努めるので、積極的に授業に参加してください。

授業の方法	内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標 脳出血、くも膜下出血、脳梗塞の病態を理解し、主症状が説明できる。	PC,プロジェクター	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定 脳卒中の疾患概要と病態1-1(脳出血、くも膜下出血、脳梗塞)、脳卒中急性期		
第2回	授業を通じての到達目標 脳出血、くも膜下出血、脳梗塞の病態を理解し、主症状が説明できる。	PC,プロジェクター	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定 脳卒中の疾患概要と病態1-2(脳出血、くも膜下出血、脳梗塞)、脳卒中急性期		
第3回	授業を通じての到達目標 外傷性脳損傷の病態が理解を理解し、主症状が説明できる。	PC,プロジェクター	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定 脳卒中の疾患概要と病態2(外傷性脳損傷) 他:脳浮腫, 頭蓋内圧亢進, 脳ヘルニア, ペナンプラ, 機能乖離		
第4回	授業を通じての到達目標 脳画像を見て、各部名称とその機能を説明できる。CTとMRIの特徴を説明できる。	PC,プロジェクター	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定 脳画像の読影①(正常解剖, 脳出血, くも膜下出血, 脳梗塞, 頭部外傷)		
第5回	授業を通じての到達目標 脳画像を見て、異常部位と出現する症状を列挙できる。その症状を確認するための評価項目を列挙できる。	PC,プロジェクター	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定 脳画像の読影②(脳出血, くも膜下出血, 脳梗塞, 頭部外傷)		

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	運動麻痺、感覚麻痺について説明できる。	PC,プロジェクター	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	脳血管障害の症状(運動麻痺を中心に,他:感覚麻痺,高次脳機能障害)		
第7回	授業を通じての到達目標	運動麻痺の回復過程、治療の考え方について説明できる。	PC,プロジェクター	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	運動麻痺の回復と治療の考え方(神経筋促通法),予後予測とゴール設定		
第8回	授業を通じての到達目標	それぞれの合併症とその予防について説明できる。	PC,プロジェクター	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	脳血管障害の合併症(意識障害,拘縮,肩手症候群,肩の亜脱臼,起立性低血圧,深部静脈血栓症など)		
第9回	授業を通じての到達目標	スクリーニング評価の方法と意義目的を説明できる。	PC,プロジェクター	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	高次脳機能障害,スクリーニング評価について		
第10回	授業を通じての到達目標	スクリーニング評価を模擬患者に実施できる。	PC,プロジェクター 実習室	(予習)特になし (復習)スクリーニング検査の実施手順
	各コマにおける授業予定	評価① CVA患者に対する実際の評価の流れ,スクリーニング検査		
第11回	授業を通じての到達目標	感覚検査を模擬患者に実施し,記録できる。	PC,プロジェクター 実習室	(予習)感覚検査の手順確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	評価② CVA患者に対する感覚検査(表在感覚,深部感覚)		
第12回	授業を通じての到達目標	反射検査を模擬患者に実施し,記録できる。	PC,プロジェクター 実習室	(予習)反射検査の手順確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	評価③ CVA患者に対する反射検査(深部腱反射,病的反射)		
第13回	授業を通じての到達目標	粗大筋力検査,安静時筋緊張検査を模擬患者に実施できる。	PC,プロジェクター 実習室	(予習)筋力検査の手順確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	評価④ CVA患者に対する筋力検査(GMT・MMT),筋緊張検査(安静時),治療概念		
第14回	授業を通じての到達目標	筋緊張検査(安静時・動作時)を模擬患者に実施できる。	PC,プロジェクター 実習室	(予習)筋緊張検査の手順確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	評価⑤ CVA患者に対する筋緊張検査(動作時)		
第15回	授業を通じての到達目標	平行機能検査を模擬患者に実施できる。	PC,プロジェクター 実習室	(予習)バランス検査の手順確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	評価⑥ CVA患者に対する平衡機能(姿勢反射)検査と治療概念		